

ご挨拶

本日のご来場、誠にありがとうございます。創立25年からまた新たな一歩を踏み出すことができましたこと、皆さまのあたたかいご支援のおかげと深く感謝申し上げます。

第一ステージは、今年もルネッサンスの教会音楽を取り上げました。

現在、震災から一年三ヶ月を経ても、いまだに苦しみつづける方々がおられます。避難所はすでに閉鎖されたものの、まだ3割もの被災者が仮設での生活だそうです。義援金の協力はしても、はたしてその人たちの心の痛みに寄り添うことができているのでしょうか。

本日最初のステージでは、民の苦しみ、キリストの受難をテーマにした曲、そして慈母マリアを讃える曲を通して、いま「私」は被災された方々のつらさを共感することができののだろうか…という問いを自身に向けたいと思います。

第二ステージでは、今年もイギリスマドリガルの黄金時代の最もポピュラーで楽しめる作品を選びました。恋に悩む歌、春の到来を喜ぶ歌、恋人にアタックする歌、庶民の活力を歌う曲などをお楽しみ下さい。

第三ステージは、フランドルのこころを歌う作品として「君を恋う歌 Ik misse U」「ひつじ雲 Wolkschaapjes」「人間だから歌おう Mens zijn」のつ三曲を、さらに、第一ステージの思いを近代フランドルの曲を通じてお届けしようと、ここでも Ave verum corpus と3人の作曲家の Ave Maria、そしてオランダ語でマリアさまを讃える Bi'twegkapelleken(遠くの小さな聖堂にて)と Wees gegroet Maria(Ave Mariaのオランダ語訳)を選びました。

被災地では今この時も大勢の方々がなごつらい思いに耐えておられます。今日のご来場の皆さまとともに思いをともにし、被災地に向けて心から声援を送りたいと思います。

